

## 関西経済シンポジウム—これからの発展のために

主催：日本科学者会議近畿地区

参加対象：このテーマに関心のある方はどなたでもご参加ください。歓迎いたします。

日時：2018年2月11日（日）午後1時から5時

場所：大阪経済大学 D12 教室（座席 182 人）

阪急京都線上新庄駅または地下鉄今里筋線瑞光4丁目からバス又は徒歩

### [プログラム]

シンポジウムの趣旨説明 兵庫県立大学名誉教授

河野 仁

ご挨拶 大阪経済大学准教授 伊藤 大一さん

### 講演1. 「関西経済」の構造変動と再生方向— 地域経済学の視点から

京都大学大学院経済学研究科教授 岡田知弘さん

要旨 「関西経済の地盤沈下」が指摘されて久しい。同様に、この「地盤沈下」論を前提にした「関西州」「大阪都」構想による関西経済活性化論も依然として繰り返されている。しかし、そもそも「関西経済」の実体とはどのようなものなのだろうか。それは、歴史的に日本経済のなかでどのような位置を占めてきて、現在、いかなる相対的地位にあるのだろうか。さらに、その際、「関西州」や「大阪都」といった自治体再編によって関西地域の経済は再生できるのだろうか。それが難しいとすれば、どのような政策が求められるのだろうか。

本報告では、地域経済学の視点から、経済のグローバル化のなかで構造変動を遂げている「関西経済」の実像と、その再生方向について、上からの「選択と集中」による「活性化」という視点からではなく、住民の生活領域に根付いた地域産業と各府県経済の自律的発展の視点から、問題提起してみたい。

### 講演2. 大阪市の地域産業政策のこれから—成長戦略から発展戦略へ—

大阪市立大学商学部教授 本多哲夫さん

要旨 近年の大阪市の産業政策は、新産業創出によって経済成長を目指すという政策が主軸となっており、企業誘致、開発政策を進めることに重きが置かれつつある。しかし、こうしたトリクルダウン型の政策路線ではなく、中小企業支援を地域産業政策の主軸に据えるべきではないだろうか。見た目は派手ではなくとも、大阪市内に分厚く存在する地元中小企業を支援していくという地道な政策スタンスである。ごく限られた強い企業・産業による大きな変革を目指すのではなく、地元中小零細企業による小さな変革を数多く創出させていくという考え方が必要である。地元中小企業支援を地道に行う体制が大阪市に存在していないわけではない。すでに取り組みされている中小企業の支援体制にもっと目を向けて、それこそを地域産業政策の中心として位置づけ直すことが求められる。本報告では、大阪産業創造館や区役所での中小企業支援事例をみていくなかで、大阪市の地域産業政策の課題について検討したい。

### 3. 討論

参加費：資料代 500 円（但し、院生、学生は無料）

連絡先：日本科学者会議近畿地区会議 河野 仁 [jsaosk@yahoo.co.jp](mailto:jsaosk@yahoo.co.jp)

左近 拓男 [jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp)

参加受付：当日、会場にて行います。

